

# 地域再生計画

## 1 地域再生計画の名称

観光交通の回遊性向上による地域資源活性化事業

## 2 地域再生計画の作成主体の名称

静岡県田方郡函南町

## 3 地域再生計画の区域

函南町の全域及び伊豆半島全域との広域連携

## 4 地域再生計画の目標

### 4-1 地域の現状

函南町は、静岡県東部伊豆半島の玄関口に位置し、東西及び南北の長さはそれぞれ12.7km、11.1km、面積は65.16km<sup>2</sup>であり、山間地は富士箱根伊豆国立公園が周囲を覆い、海や湖にも近接し、箱根山系南西斜面一帯の原生林に代表される、緑豊かな美しい自然景観に恵まれています。

本町には、国道136号、主要地方道熱海函南線が通り、また、J R東海道本線函南駅は東京駅から100km圏の距離にあり、隣接する熱海駅、三島駅の両駅は東海道新幹線が停車し、三島駅と伊豆市の修善寺駅を結ぶ伊豆箱根鉄道駿豆線の伊豆仁田駅を有し、鉄道交通に恵まれています。

人口は、平成28年3月末現在 38,471人で、平成18年を境に減少傾向となり、高齢化率も29.4%と近年伸びており少子高齢化が進んでいます。

町の主要産業は農業で、山間地域においては丹那牛乳のブランドを持つ畜産業、丘陵地では箱根西麓野菜に加え函南スイカが栽培され、平坦地域ではハウス栽培としてイチゴ、トマト、胡瓜、ナス、メロン、マンゴー等のほか、水稻や柿なども栽培されています。

このように農業が盛んな本町であるが、農業者の高齢化や後継者不足が進み、ブランド商品も少ないことから、農業経営の効率化を図り収益を向上させる農業の6次産業化や新たな販売戦略が求められている。

観光資源としては、酪農王国オラッチェ、十国峠、湯〜トピアかなみと国民保養温泉の畑毛温泉などがあるが、近年は入込客数が微増となっているので、少子高齢化が進む中、交流人口を増加させて賑わいを創出できるような観光施策の取組が必要とされている。

このような中、伊豆縦貫自動車道の一部を構成する東駿河湾環状道路が、H26年2月に函南塚本 IC まで開通し、東名、新東名高速道路から伊豆市まで走行性の高い道路で結ばれた。また、圏央道の東名高速道路への接続に加え、H30年には中部横断自動

車道も接続し中部圏、北関東圏を含め伊豆は日帰り観光圏となります。これら高規格道路を利用し伊豆を訪れる観光交通は、必ず函南町を通過することとなることから、当町では、課題を解決する地域活性化の拠点施設として、現在「道の駅・川の駅」整備事業を進めており、H29年5月の供用を目指しています。

#### 4-2 地域の課題

東駿河湾環状道路の開通により、伊豆半島への観光交通が飛躍的に増大する中、地域産業の振興を図り、町を活性化させるためには、観光交流拠点として整備中の道の駅において、他の類似施設とは違った魅力的な商品や質の高いサービスの提供を行い、伊豆半島への来訪者を道の駅に滞留させるとともに町内の観光資源へ導く必要がある。

また、函南町の主要産業である農業を活性化させるために、新たな函南ブランドの開発を行い、それらブランドを道の駅から広く全国に情報発信し、物産販売所での販売や飲食施設での活用を促進させる必要がある。

「伊豆は、ひとつひとつ」と言われるように、今まで広域連携による観光振興が進まなかった。しかし、近年の観光産業の衰退により、昨年「美しい伊豆創造センター」が設立され、広域連携による観光振興の取組みが始まった。また、「伊豆道の駅ネットワーク」が、国土交通省の重点道の駅に認定され、当町の計画中の道の駅を含め、既存の道の駅7駅による連携事業も始まった。そこで当町の道の駅を伊豆半島のゲートウェイセンターと位置づけ、地域資源を含めたタイムリーな観光情報を発信し、伊豆半島全体の観光振興に結び付けることが必要である。

#### 4-3 目標

当町においては、高齢化が進行しており主産業である農業においても例外ではなく、効率的で収益性の高い農業経営が必要であり、農業の6次産業化を推進すると共に、地域資源を全国に向け情報発信することで観光誘客を図り、農畜産業の振興に役立てようとするものである。

また、本地域は世界文化遺産である富士山の眺望景観や韮山反射炉にも近く、更には世界認定を目指している伊豆半島ジオパークのジオサイトも伊豆全体に点在している。観光産業は、伊豆全体で連携し振興を図ることが重要であり、昨年度「美しい伊豆創造センター」が組織された。函南町の道の駅から伊豆の地域資源をPR発信することで、伊豆半島全体の観光振興に寄与し、当町を含め観光産業の活性化により雇用の増大に結びつけることを目標とする。

##### 【数値目標】

###### 目標1

町内観光誘客数：平成27年度 561,107人 → 平成30年度 592,327人

###### 目標2

道の駅の年間売上額：平成29年度 519,750千円 → 平成30年度 537,075千円

### 目標 3

道の駅の雇用者数：平成 29 年度 12 人 → 平成 30 年度 16 人

## 5 地域再生を図るために行う事業

### 5-1 全体の概要

当町は、農畜産業が盛んであり、山間地域においては丹那牛乳のブランドを持つ畜産業、丘陵地では箱根西麓野菜に加え函南スイカが栽培され、平坦地域ではハウス栽培としてイチゴ、トマト、胡瓜、ナス、メロン、マンゴー等のほか、水稻や柿なども栽培されている。これら農畜産物や加工品をPRする道の駅キャラクターを作成することで、キャラクターを利用した新たな商品開発を進めると共に、これらを函南ブランドとして認定することにより、ブランド力の向上を図り、道の駅での販売や本施設から全国に向け情報発信することで知名度の向上と収益増加を図る。

また、世界文化遺産の富士山の眺望や韮山反射炉、伊豆半島ジオパーク等世界に誇れる観光資源を、道の駅の情報媒体を活用し、町内を始め伊豆半島全域を周遊させることで、地域での消費につなげ観光産業を活性化させることで雇用の増大につなげる。

### 5-2 第5章の特別の措置を適用して行う事業

#### 地方創生推進交付金

#### 1 事業主体

静岡県田方郡函南町

#### 2 事業の内容

道の駅周辺の農用地で栽培されているイチゴ、トマト等を活用しもぎとり体験のイベントや、体験加工（ジャム、ケーキ等）の実施のほか、共同利用できる加工所の実現に向けた調査等を実施し、農業の6次産業化を推進する。また、道の駅キャラクターを作成し、賑わいの場の提供やキャラクター商品の開発を促すと共に、着ぐるみを作成しイベント時のにぎわい創出に役立てる。

町内で生産あるいは加工している、農畜産物を函南ブランドとして認定することで、安定した価格での消費と、加工品開発により付加価値をつけ、効率的で収益性の高い農業を推進する。

また、観光交通を町内誘導させることによる町内での消費を促すことで、町内事業所の収益増加を図るため、観光資源や地域資源を情報発信するための映像資料等を作成し、道の駅から情報発信するとともにインバウンド対応も合わせて実施し、交流人口の増加につなげる。

#### (1) 道の駅・川の駅を活用した観光振興事業

道の駅キャラクターを作成し、キャラクターグッズの開発やイベント及びキャンペーン開催時の賑わい創出に活用する。

(2) 函南ブランド認定・PR事業

新たに函南ブランド認定制度を設けて、函南ブランドを確立し、全国に情報発信しブランド力を向上させ産業振興を図る

(3) 道の駅・川の駅からの情報発信事業

世界文化遺産の富士山や伊豆半島ジオパーク、町内観光資源等をPRするための映像資料を作成し、大型モニターやHPなどで情報発信することで、町内交流人口の増加を図る。また、道の駅に観光コンシェルジュやジオガイドを配置して、施設利用者に質の高い情報提供を行う。

(4) 町内観光資源への誘導事業

町内の観光資源や優良景観ポイントを回るルートを作成し、それらをガイドし周遊する運行サービスを実施して観光振興を図る。また、インバウンド観光を積極的に受け入れるため、免税店対応を推進するとともに、道の駅からも外国人対応の観光資源情報を発信する。

(5) 農業の6次産業化推進事業

道の駅を拠点とした農業の6次産業化推進計画を策定し、地場産品による新たな地域ブランド品の開発や加工施設の整備、観光農業等の実現を目指し、農業経営の効率化と収益の向上を図る。

### 3 事業が先導的であると認められる理由

#### 【官民協働】

・現在施設整備中の道の駅は、民間活力を導入したPFI事業として、施設計画から施設整備及び15年間の維持管理運営を行うこととしている。その中で、道の駅機能部分は、指定管理で実施し、主に地場産品を活用した3つの飲食施設や物産販売所は、独立採算事業としてSPCが運営していく。本事業実施に当たり業務要求水準の中で、地元企業の参画や町内雇用を優先することとしており、雇用の場の確保と地場産品の地域内消費を促すことで、地域農業の振興と地域産業の発展につながる官民協働の事業となるものである。

#### 【地域間連携】

・函南道の駅・川の駅は、伊豆半島を訪れる観光交通の入り口部分に位置することから、昨年伊豆半島の観光振興を目的に組織された「美しい伊豆創造センター」と連携し、伊豆半島全体の道路・観光情報を発信し、観光ニーズに合ったサービス提供を図り観光誘客につなげる。

また、重点道の駅に認定された「伊豆道の駅ネットワーク」の構成市町等と連携し、情報の共有、発信することでタイムリーな情報提供に努め観光誘客を図ると共に、ジオパーク推進協議会とも連携し、ビジターセンター機能をもたせることで観光サービスの提供の充実を図り、観光客の増加に結び付ける。

#### 【政策間連携】

- ・伊豆半島は、風光明媚な観光地であり、年間を通し多くの観光客が訪れる。しかし、道路ネットワークが脆弱であり、南海トラフ巨大地震が叫ばれる本地域においては、防災対策も求められる。本道の駅は、道路利用者の休憩の場として、また地域の活性化に役立つ施設であるとともに、災害時における防災機能を併せ持つ施設として活用する。そのため国土交通省が行う河川防災ステーションと連携を図り、災害時の活用はもとより、平常時においては、道の駅と一体的に利用することで、伊豆を訪れる観光客に安心と観光情報の充実した提供、河川敷を利用した賑わい空間としての活用を図り、観光客の増加につなげる。

#### 【自立性】

- ・H29年5月の供用を予定しており、初期段階における道の駅施設の機能を最大限に活かすための情報サービス資料の作成や、町内地域資源に対する認知度を充実させる事業展開により、安定した観光サービスの提供や、新たな地域ブランドの開発、販売により独立採算事業の収益増加につなげることで、自立した道の駅の運営を構築する。

#### 【その他の先導性】

- ・本施設は、道の駅としての機能だけでなく、R136BPを挟み一級河川 狩野川 の河敷きを活用し、川の駅として駐車場や多目的に利用する水防多目的センターを整備すると共に、水辺に親しめる空間整備として親水護岸や広場、ドックラン、ワンド等の整備を行い利用することで、平常時における河川の有効活用が図られ、道の駅との一体利用により更に集客力が期待できる事業である。

### 4 重要業績評価指標（KPI）及び目標年月

	H29年3月末	H30年3月末	H31年3月末
町内観光誘客数(人)	564,229	579,839	592,327
道の駅の売上額(千円)	0	519,750	537,075
道の駅の雇用者数(人)	0	12	16

### 5 評価の方法、時期及び体制

指標の評価については、毎年度、別に定める評価委員会で実施状況を把握し、達成状況の評価、改善すべき事項の検討を行う。

### 6 交付対象事業に要する費用及び交付対象経費

75,900千円

### 7 事業実施期間

平成28年度 ～ 平成30年度まで

## 8 その他必要な事項

該当なし

### 5-3 その他の事業

#### 5-3-1 地域再生基本方針に基づく支援措置

該当無し

#### 5-3-2 支援措置によらない独自の取組

##### (1) 社会資本整備総合交付金事業（都市再生整備計画）

事業概要：道の駅に係る非収益事業部分の施設整備及び川の駅に係る非収益事業部分の整備（かわまちづくり事業分を含む）について補助事業として実施するもの。

実施主体：函南町

事業期間：平成 27 年度～平成 30 年度

## 6 計画期間

地域再生計画認定の日から平成 31 年 3 月 31 日まで

## 7 目標の達成状況に係る評価に関する事項

### 7-1 目標の達成状況に係る評価の手法

地域再生計画の目標については、毎年度、別に定める評価委員会で実施状況を把握し、達成状況の評価、改善すべき事項の検討を行う。

#### 目標 1

町内観光誘客数については、毎年 5 月に前年度の町内観光施設の年間利用者数を集計して把握する。

#### 目標 2

道の駅の年間売上額については、事業者より毎年 5 月に報告を受ける前年度の道の駅の物産販売所と飲食施設の売上額にて把握する。

#### 目標 3

道の駅の雇用者数については、前年度の雇用実績を事業者を確認して把握する。

## 7-2 目標の達成状況に係る評価の時期及び評価を行う内容

	関連事業	平成27年度 基準年度	平成28年度	平成29年度 中間目標	平成30年度 最終目標
目標1					
町内観光誘客数	(1)~(5)	561,107 人	564,229 人	579,839 人	592,327 人
目標2					
道の駅の売上額	(1)~(3)、(5)	0 千円	0 千円	519,750 千円	537,075 千円
目標3					
道の駅の雇用者数	(1)~(3)、(5)	0 人	0 人	12 人	16 人

## 7-3 目標の達成状況に係る評価の公表の方法

町が中間点と最終年度に町の広報及びHPで公表